

考えよう
VEの新しい
カタチ

SJVE
CONFERENCE 2018

第51回VE全国大会 プログラムガイド

コスト競争力の強化と
顧客満足の上を
クリエイティブ・ソリューション
もたらす価値創造技法、
VE (Value Engineering)の最新動向と
企業事例がここにあります！

第51回VE全国大会

2018.10.23-24 [tue] [wed]

アルカディア市ヶ谷(私学会館)

主催 公益社団法人日本バリュー・エンジニアリング協会

後援 一般社団法人日本建設業連合会／日本インダストリアル・エンジニアリング協会
NPO法人日本TRIZ協会／日本創造学会／上海VE協会



会場平面図

2階レストランのご案内

レストラン
フォッセ
RESTAURANT FOSSE



日本料理
いちがや
ICHIGAYA
JAPANESE RESTAURANT



中国料理
翠
SUI
Chinese Restaurant



■プログラム

第1日目 10月23日(火)

3階・富士	
10:00	<p>●開会挨拶</p> <p style="text-align: right;">公益社団法人日本バリュー・エンジニアリング協会 会長 斎藤 保 第51回VE全国大会実行委員長 薄衣 光明 CVS</p>
10:40	<p>●協会顕彰表彰式／マイルズ賞授賞式</p>
休 憩	
11:00	<p>●基調講演</p> <p style="text-align: center;">VEでイノベーションに挑む ～IHIの初めて物語を考察する～</p> <p style="text-align: right;">公益社団法人日本バリュー・エンジニアリング協会 会長 株式会社IHI 代表取締役会長 斎藤 保 氏</p>
11:50	
昼 食 ・ 休 憩	
12:50	<p>●2018年度マイルズ賞 受賞記念講演</p> <p style="text-align: center;">VEで組織を変える、業界を変える ～食堂業の産業化を目指して～</p> <p style="text-align: right;">株式会社サイゼリヤ 代表取締役社長 堀埜 一成 氏</p>
13:50	
休 憩	
14:10	<p>●2018年度VE活動優秀賞 受賞報告①</p> <p style="text-align: center;">原価企画・VE活動実践の定着と拡大に向けた取り組み ～VE活動の取引先や海外工場への適用拡大～</p> <p style="text-align: right;">三菱電機株式会社 稲沢製作所 資材部資材企画課 足達 満則 氏 VES</p>
14:50	
15:30	<p>●2018年度VE活動優秀賞 受賞報告②</p> <p style="text-align: center;">継続的なVE活動による経営に貢献する取り組み ～VE導入から既存製品・開発製品への適用と普及・定着化～</p> <p style="text-align: right;">株式会社日立建機ティエラ 株式会社日立建機ティエラ 開発・調達本部VEC推進部長 西村 正雄 氏 VEL</p>
休 憩	
15:50	<p>●特別講演</p> <p style="text-align: center;">デジタイゼーションが社会・ヒトにもたらす新たな価値とは ～経団連の Society5.0 実現に向けた取り組み～</p> <p style="text-align: right;">一般社団法人日本経済団体連合会 産業技術本部長 吉村 隆 氏</p>
16:50	
17:20	<p>●ネットワーキング・パーティー</p> <p>各社のVE担当者や第一線で活躍中のVEコンサルタント、表彰を受けた方々などが一堂に会する「ネットワーキング・パーティー」を今年も大会初日に開催いたします。カジュアルな雰囲気の中で、自社の活動ドライブや新たなビジネスにつながる出会いを見つけてください。(大会参加費とは別に参加費をいただきます)</p>
18:30	<p style="text-align: right;">於・TO THE HERBS 市ヶ谷店</p>

第2日目 10月24日(水)

	3階・富士(西)	3階・富士(東)
10:00	<p>●論文発表①【優秀論文】 製品進化を促す機能定義 ～機能定義の対象拡大の意義と効用～</p> <p>GHコミュニティ 代表 後明 廣志 氏 CVS ほか</p>	<p>●事例発表① 歩行者等誤進入、逆走検知・警告システムの 低コスト化検討事例</p> <p>首都高速道路株式会社 日本橋区間更新事業推進室 計画調整課 課長代理 角田 征 氏 VEL</p>
10:40	<p>●特別報告② VEの知識・経験が少ない人でも効果的なVE思考が できる指導とは －VEと言わずにVEをやってみた－</p> <p>株式会社IHI 主幹 薄衣 光明 氏 CVS</p>	<p>●特別報告③ 駅の利便性向上と渋滞解消を目指した 交差点改良の設計VE</p> <p>群馬県県土整備部 建設企画課 副主任 土屋 隆太郎 氏 VEL</p>
11:20	<p>●特別報告⑤ 世界の潮流、FASTダイアグラム活用のススメ ～SAVE国際協会の最新動向とともに～</p> <p>株式会社ファンクショナル・アプローチ研究所 代表取締役社長 横田 尚哉 氏 CVS</p>	<p>●特別報告⑥ 「道の駅」の価値向上の取り組み</p> <p>東日本支部 社会インフラ部会 木守 岳広 氏 CVS</p>
12:00		

昼食・休憩

13:00	<p>●VE教育フォーラム 考えよう VE教育の新しいカタチ ～成果把握からインストラクターの資質まで～</p> <p>[モデレーター] TEDパリュウ・コンサルティング 代表 服部 哲郎 氏 CVS</p>	<p>●論文発表④ 類似サブアセンブリ品への効果的なVE活用法 ～基本となる機能系統図の使用～</p> <p>三菱電機株式会社 生産技術部生産技術グループ 有住 雅子 氏 VES</p>
13:40	<p>●新商品開発フォーラム 商品進化を促す機能分析② ～新商品企画における機能整理の考え方～</p> <p>[モデレーター] 東京理科大学 名誉教授・工学博士 日本経営システム協会 会長 田中 雅康 氏 CVS</p>	<p>●特別報告⑧ VEを応用したプロジェクトマネジメント</p> <p>UR都市機構 東日本都市再生本部事業推進部 担当部長 芝浦工業大学 非常勤講師 久野 暢彦 氏 VEL</p>

休憩

14:30	<p>●特別報告⑨ 野球型からサッカー型への大転換 90分で完了する「業務改善の短時間VE」とは</p> <p>足立パリュウアップ・コンサルティング 代表 足立 忠郎 氏 CVS</p>	<p>●2018年度マイルズ賞 受賞報告 サービス業の体質改善と産業化をすすめる VE活動の取り組み ～ファンクションを中心とした経営活動の変革～</p> <p>株式会社サイゼリヤ イノベーション本部変革推進部 部長 FAマネジメント長 内村 さやか 氏 VEL</p>
-------	---	---



休憩(間仕切り撤去)

3階・富士

16:00	<p>●特別講演 ひとつ上の思考力 ～シングルループからダブルループへ～</p>	
16:50	<p>ペネトラ・コンサルティング株式会社 代表取締役 安澤 武郎 氏</p>	

第2日目 10月24日(水)

	5階・大雪	5階・穂高
10:00	<p>●論文発表② コスト最適設計力を持つ技術者の育成方法の開発</p> <p>株式会社デンソー 原価企画室課長 竹菴 憲治 氏 VES</p>	<p>●特別報告① AIからBIへ ～社会成長期へ向けた次世代型VE/VM～</p> <p>バリューデザイン・ラボ 不便益&VE研究会 京都大学デザイン学リーディング大学院 特定教授 川上 浩司 氏 名古屋大学工学研究科 講師 Emanuel Leleito 氏</p>
10:40	<p>●論文発表③【佳作論文】 ものづくり人材教育におけるTRIZ創造手法の適用</p> <p>三菱電機株式会社 人材開発センター ものづくり教室 教室長 織田 昌雄 氏 CVS ほか</p>	<p>●特別報告④ 差別化機能抽出手順の提案 ～ヒット商品は企画で決まる～</p> <p>東日本支部 R&D部会 野嶋 泰資 氏 CVS</p>
11:20	<p>●特別報告⑦ フィールドサービス業の業務効率向上と 新サービス創造VEプロジェクト ～顧客満足と社員満足による価値創造経営～</p> <p>新川電機株式会社 執行役員フィールドエンジニア本部長 田屋 将 氏 株式会社福原イノベーション研究所 代表取締役社長兼CEO 福原 政則 氏 CVS</p>	<p>●事例発表② 現場社員へのVEマインド普及媒体の改善事例</p> <p>株式会社サイゼリヤ イノベーション本部変革推進部 マネージャー 吉澤 謙一 氏 VEL</p>
12:00	昼食・休憩	
13:00	<p>●海外発表①【逐次通訳】 フィリピンにおける公共事業の VE支援体制と制度化</p> <p></p> <p>SYSTRA Philippines Inc. Maria Rhiza Castillo 氏</p>	<p>●論文発表⑤【佳作論文】 電子回路VEにおけるブロック図を活用した 機能の整理の一方法</p> <p>パイオニア株式会社 経営戦略部経営革新部 コストエンジニアリング部 主事 下村 盛章 氏 VES</p>
13:40	<p>●海外発表②【逐次通訳】 インドにおけるVEの活用状況と 今後の展開</p> <p></p> <p>インドVE協会(INVEST) Taresh Varshney 氏</p>	<p>●事例発表③ 給湯器の電子回路におけるVEの適用事例</p> <p>株式会社ノーリツ 研究開発本部技術管理部 開発技術企画室 増田 裕也 氏 VES</p>
14:20	休憩	
14:30	<p>●海外発表③【逐次通訳】 VEを活用した 交通インフラプロジェクトの取り組み</p> <p></p> <p>SYSTRA Philippines Inc. Christine Stephanie Laumond 氏</p>	<p>●事例発表④ 自動車用プレス部品の材料歩留率向上を目指したVE ～広島地区VE塾の取り組みから～</p> <p>住野工業株式会社 生産技術グループ 主務 小林 寛史 氏</p>
15:10	<p>●海外発表④【逐次通訳】 トラクターの車軸組み立てにおける 製造VE事例</p> <p></p> <p>Mahindra & Mahindra, Ltd. Priya Davis 氏 ほか</p>	<p>●事例発表⑤ ビジネスホテルにおけるサービスの 価値向上に向けたVEの適用事例</p> <p>大阪学院大学経営学部 教授 大阪府立大学 名誉教授 山本 浩二 氏 VEL 株式会社ホテルサン防府 代表取締役社長 林 順子 氏 VEL</p>
15:50		

■ 協会顕彰

顕彰規程に基づき、本会の事業やVEの発展、またはVEに関する研究開発や普及活動で顕著な功績のあった方やグループをVE全国大会で表彰しています。また、「VE活動優秀賞」は継続的にVE活動を実施し、その成果を経営業績に反映させている企業や事業部門に授与されます。

《VE功労賞》

嘉納 成男 氏〔早稲田大学 名誉教授〕

2002年から2018年までの16年にわたって理事に就任され、本会の発展に大きく貢献された。また、1995年から2017年までマイルズ賞審査委員、2002年から2006年までは論文審査委員長としてVEの普及・発展にご尽力いただいた。大学における研究、教育を通じてもVEの発展や人材育成に努めるなど、その功績はきわめて大きい。



《普及功労賞》

岡本 健 氏〔株式会社安川電機 生産・業務本部 生産業務推進担当課長 VEL〕

2012年3月から6年間にわたり、西日本支部（中四国・九州地区）の運営委員として西日本VE大会の企画立案をはじめ、九州地区VE塾の運営において中心的な役割を担い、支部活動の活性化と事業拡大に多大な貢献があった。社内では、VE推進事務局として原価低減・VE活動の計画・統制・支援等の業務を担当。並行して関係部門や関係会社へのVE講習講師を務め、VEリーダー資格の取得支援を進めるなど、VEの普及定着に力を尽くした。



菊池 好洋 氏〔積水化学工業株式会社 生産力革新センター/モノづくり革新センター 部長 VEL〕

2003年4月から西日本支部（関西地区）の運営委員を務め、VE関西大会やVE京滋セミナーなどの企画立案と運営に協力。支部活動の活性化と事業拡大に多大な貢献があった。社内では、モノづくり人材育成のキーパーソンとしてVEをはじめとする管理技術および階層別マネジメントスキル教育の体系化と研修の企画・運営を推進。IE手法に目的志向、機能本位のVE思考を融合させた「積水流IE手法」を確立し、デザインアプローチによる工程改善手法として、全社を対象とした教育、実践活動に尽力している。



沼澤 朋子 氏〔横河電機株式会社 グローバル・ビジネス・サービス本部 SCM部企画推進課 CVS〕

2011年4月から現在までの7年以上にわたり、マーケティング部会の主査・副主査として部会運営の円滑化と支部活動の活性化に貢献。また、2012年の第45回VE全国大会では実行委員長を務め、企画立案やプロモーション活動にリーダーシップを発揮した。2010年にはアジア初の女性CVSとなり、同社をマイルズ賞へと導いたほか、コストダウンプロジェクトにおけるVE推進リーダー、コスト競争力および設計開発力の技術伝承に関する研修プログラムの作成・運営などの実績が認められ、2度の全社表彰を受けている。



三好 達夫 氏〔三菱電機株式会社 生産技術部 嘱託 CVS〕

東日本支部の副支部長（2016年4月～現在）ならびにR&D部会の主査・副主査（2012年4月～現在）として、支部活動の活性化と部会運営の円滑化に大きく貢献した。また、2014年の第47回VE全国大会の実行委員長として企画立案やプロモーション活動にリーダーシップを発揮したほか、CVSフォーラム委員や協会主催セミナーの講師としても活躍中。社内では全社のVE推進業務を担当するほか、VE関連講座の講師も務めるなど、VEの普及定着とVE人口の拡大に尽力している。



《VE活動優秀賞》

三菱電機株式会社 稲沢製作所



所在地：愛知県稲沢市
事業内容：昇降機およびビルシステム機器の製造
代表者：稲沢製作所長 林 美克 氏

【VE活動状況】

全社共通活動指標と製作所経営方針を達成するため、年度ごとに製作所としての原価企画・VE活動方針と重点取り組み事項を定めて活動。開発企画段階から目標原価達成を目指す原価企画活動、そのツールとして1図面VE®実践活動、取引先との共同VE活動、それらを強化するVE教育・資格取得等の推進により、戦略的原価企画対象機種（重点開発機種）の目標原価達成率は100%を達成、利益確保に大きく貢献している。中国、台湾、韓国、タイ、インド、インドネシア、メキシコ、コロンビアの各工場ではVE教育と1図面VE®実践活動を実施するなど、VE活動のグローバル化にも取り組んでいる。

株式会社日立建機ティエラ

株式会社 日立建機ティエラ

所在地：滋賀県甲賀市
事業内容：建設機械の製造
代表者：取締役社長 中村 和則 氏



【VE活動状況】

VE活動の推進は、「開発・調達本部」に置かれる「VEC推進部」がその機能を果たしており、中期経営計画で示された全体方針に基づいて各部署がVE活動施策を盛り込み、予算達成を目的とした全社的活動を展開している。毎月開催される「原低状況検討会」で既存製品の原価管理および原価改善管理・進捗を行い、開発製品の原価企画は「PDI (Products Development Innovation) 組織」がその役割を担っている。「設計変更依頼書兼アイデア提案書」を社内外より受け付け、進捗管理および実施適用を進めており、ここから得られたVEC提案は2005年からの総数で447件に上っている。

■ マイルズ賞

VEの創始者であるL.D.マイルズ氏を記念して創設された権威ある賞で、VE活動を実践して顕著な成果をあげた企業や公共機関が受賞しています。「マイルズ賞」はVEを活用して顕著な成果をあげた企業や事業部門、「マイルズ賞本賞」はマイルズ賞受賞後も継続して成果をあげた企業、「マイルズ賞特別賞」はVE制度の運用によって公共工事のコスト縮減や価値の高い社会資本整備に努めている公共機関に授与されます。

《マイルズ賞》

株式会社サイゼリヤ

所在地：埼玉県吉川市

事業内容：イタリア料理店「サイゼリヤ」をチェーン展開する
フードサービス業

代表者：代表取締役社長 堀埜 一成 氏



【VE活動状況】

正垣泰彦会長の後を継いだ2代目社長堀埜一成氏がVE手法に感銘。経営改革に寄与するとして、自ら講師となって全国を回り普及に奔走した。2013年3月からVEを本格的に導入し、2015年にはVE活動優秀賞を受賞、導入5年余りでマイルズ賞挑戦という姿勢が示す通り、食堂業の市場変化のスピード感をもってVE活動を推進している。なお、同社ではVEをFA（ファンクショナル・アプローチ）と呼称し、普及定着を図っている。長期的理論的な活動を苦手とする業界特性を踏まえ、「身近なFA・愉しむ改善～みんなのFAを目指して～」をスローガンに掲げ、導入当時はFA研修終了者を「きびだんご隊員」と名付けるなど、楽しい仕掛けをちりばめた活動で改善効果を高めている。ファンクション向上の追求が顧客体験価値の見直しや商品戦略15年構想を生み出すなど、次ステージの成長戦略立案と実行においても成果を挙げている。

■ 講演

《基調講演》 VEでイノベーションに挑む ～IHIの初めて物語を考察する～

公益社団法人日本バリュー・エンジニアリング協会 会長

株式会社IHI 代表取締役会長 斎藤 保 氏

IHIでは、1853年の創業以来、様々な世界・日本で初めての製品を世に送り出してきました。社会や顧客の要望を如何に実現するかを検討し、その結果が新しい製品につながっています。当時はVEの手法を用いていたわけではないですが、機能本位、価値向上や使用者優先等の考え方に依っていたと思われます。IHIの初めて物語をVEの視点から考察することで、如何にVEがイノベーションに有効であるかを述べさせていただきます。



【略歴】1952年生まれ。山形県出身。東京大学工学部卒業。1975年石川島播磨重工業（現IHI）入社。執行役員航空宇宙事業本部長、取締役執行役員航空宇宙事業本部長、取締役常務執行役員航空宇宙事業本部長、代表取締役副社長などの要職を歴任し、2012年4月代表取締役社長最高経営執行責任者に就任。2016年4月代表取締役会長最高経営責任者ものづくりシステム戦略本部長を経て2017年4月より現職。2018年6月、日本バリュー・エンジニアリング協会の第6代会長に就任。

《記念講演》 VEで組織を変える、業界を変える ～食堂業の産業化を目指して～ 株式会社サイゼリヤ 代表取締役社長 堀埜 一成 氏

サイゼリヤは、1973年の創業から食堂業でも特異な存在として科学的経営を掲げ、現在国内外で1469店のイタリアンレストランをチェーン展開している。2009年に2代目社長を受け継ぎ、「食堂業の産業化」を推し進めるべく、とにかく感覚論になりがちな業界で製造業なみの生産性を目指してきた。産業化に向けたキーポイントを技術とし、改善の必須技術としてVEを導入した。製造業とサービス業の双方の性質を持つ私達の業界において、VE適用にはさまざまな発想の転換が必要であったが、VEは私達に大きな変化をもたらしつつある。導入前後の思い、展開と定着において見えてきたもの、業界特性を踏まえた課題をお伝えする。



【略歴】1957年富山県生まれ。1981年3月、京都大学大学院農学研究科修了。同年4月に味の素入社。制がん剤の探索やアミノ酸の製法改良、グルタミン酸ナトリウムの製造、医薬用アミノ酸の製造/改良などに従事。2000年4月サイゼリヤ入社。同年11月取締役就任。神奈川工場や福島工場を立ち上げる。商品本部長、マーチャンダイジング本部長兼アグリ部長、第3事業部長、エンジニアリング部長を経て、2009年4月、代表取締役社長に就任。

《特別講演》 デジタライゼーションが社会・ヒトにもたらす新たな価値とは ～経団連の Society5.0 実現に向けた取り組み～ 一般社団法人日本経済団体連合会 産業技術本部長 吉村 隆 氏

デジタライゼーションの進展に伴ってあらゆる領域で産業構造が変わりつつある。そのような中、経団連では、デジタル技術とデータの利活用によって経済成長と社会課題解決を図る社会モデル「Society 5.0」の実現に向けて、様々な取り組みを推進している。本講演では、デジタライゼーションがもたらす新たな価値をテーマに、Society 5.0の社会像、国連による「持続可能な開発目標：SDGs」との関係、実現に向けた課題、経団連の取り組み等を紹介する。



【略歴】1997年一橋大学大学院修了後、経団連事務局入局。経済本部にて金融制度改革、国際協力本部にて開発援助政策や経済連携協定の推進に関与した後、2008年より産業技術本部に配属。2017年より同本部の本部長として、Society 5.0の推進をはじめとする科学技術イノベーション政策のほか、知的財産・ベンチャー・情報通信・宇宙・海洋・防衛産業に関する政策を担当。経済産業省や文部科学省など政府の審議会・研究会の委員を多数経験するとともに、東京大学・政策研究大学院大学にて客員研究員も務める。

《特別講演》 ひとつ上の思考力 ～シングルループからダブルループへ～ ペネトラ・コンサルティング株式会社 代表取締役 安澤 武郎 氏

「能力の差」は「努力の仕方の差」によって跳ね返すことができる。そのエッセンスは「ダブルループ学習」にある。単に「VEをする」のがシングルループ、「VEの仕方をVEする」のがダブルループと言えればイメージが湧くだろうか？VEは仕事の進め方の改革においても強力なパワーを発揮する。不完全な人間の弱さを補うために、どのような「はたらき」が大切なのか？スポーツとビジネスの両面からその本質に迫る。



【略歴】1974年滋賀県生まれ。京都大学工学部卒業後、鹿島建設に勤務。大学時代はアメリカンフットボールで学生日本一を2回経験。うち1回は社会人王者を破り日本チャンピオンを勝ち取る。個人としても鹿島建設時代を含め、オールジャパンに4度選出。その後、チームの「実行力支援」に特化した国際的コンサルティングファームで組織変革手法を習得し、創業100年超・社員数1000人規模のクライアント企業への出向も経験。アメリカンフットボール部の組織づくりのノウハウを活かし、「挑戦し続ける組織」への進化を推進している。2012年に独立し、ペネトラ・コンサルティング株式会社を設立。組織変革コンサルタントとして、中高生向けの人間教育から新規事業の立ち上げ支援を含め、人や組織に「壁を破らせるプロフェッショナル」として、さまざまな活動を展開中。

■ 受賞報告

《マイルズ賞受賞報告》 サービス業の体質改善と産業化をすすめるVE活動の取り組み ～ファンクションを中心とした経営活動の変革～ 株式会社サイゼリヤ イノベーション本部変革推進部 部長 FAマネジメント長 内村 さやか 氏 VEL

2013年の導入から5年あまり、強力なトップダウンでVEを変革の中核にすえてきた。社員1～2名の事業所が全国に分散するチェーン展開、低価格帯でのサービスの標準化、食事体験（無形）の販売というサービス業の特性の中で、どのようにVEを適用し、経営への貢献をはかってきたか、さらには今後に向けてどのような試みをしているのかを報告する。



【略歴】店舗マネジャーを経て、新規立上げの商品企画部にてメニュー企画、販売プロモーションに従事。マーケティングシステムの大規模展開時の社内コーディネーターとして情報に通じたことから、2009年社長室に移り教育的社内報の編集長兼ライターへ。2011年より社外広報を兼任、2013年社長室直轄のVEの推進事務局メンバーとして導入を担う。2014年よりVE推進室専任チームの主幹。ワークショップのリーダーも数多く務め、サービス業独自の顧客体験プロセスの構築やブランディングなど無形概念を扱うテーマを得意とする。

《VE活動優秀賞受賞報告①》 原価企画・VE活動実践の定着と拡大に向けた取り組み ～VE活動の取引先や海外工場への適用拡大～ 三菱電機株式会社 稲沢製作所 資材部資材企画課 足達 満則 氏 VES

三菱電機稲沢製作所は、原価企画活動に取り組むとともに、VE活動の活性化を図ってきた。さらに所内のみならず、取引先に対してのVE活動の適用、海外工場へのVE活動の適用を推進し、所内外でのVE活動の定着化・拡大化を図っている。また、これらのVE活動を支えるために、VEL、VES資格取得を図るとともに、所内実務者、取引先、海外工場へのVE教育・啓蒙活動に継続的に取り組んでいる。



【略歴】1981年3月電気通信大学卒業。同年4月に三菱電機入社。画像の高能率符号化、カラーレスキャナーの開発、指紋照合装置の開発、ビルの空調計装設計などを担当。2000年11月より原価企画・VE活動に従事、現在に至る。

《VE活動優秀賞受賞報告②》 継続的なVE活動による経営に貢献する取り組み ～VE導入から既存製品・開発製品への適用と普及・定着化～ 株式会社日立建機ティアラ 開発・調達本部VEC推進部長 西村 正雄 氏 VEL

当社のVE活動は、1991年にVE担当部門を設置し、図面による原価見積を行うことから始まり、現在に至るまで既存製品の原価改善施策を実施してきた。また、近年の開発製品に対する原価企画活動においては、マーケティングから量産および品質等を含むライフサイクルコストを視野に入れたプロジェクトを発足し、組織的活動を展開している。そして、教育を含む継続的な活動の推進により、着実に会社経営へ貢献している。



【略歴】1992年日立建機入社。設計部門にて中小型油圧ショベルの既存製品および開発製品の設計を行う。2002年からは品証部門にて開発試験に従事。2005年に日立建機ティアラへ出向し、ミニ油圧ショベルの開発試験を担当。2018年4月よりVEC推進部にて原価管理・原価企画に従事し、現在に至る。

■ 論文発表

《論文発表①》 製品進化を促す機能定義 ～機能定義の対象拡大の意義と効用～

優秀論文

GHコミュニティ 代表 後明 廣志 氏 CVS ほか

企業も製品も常に進化を求められる。製品の進化は、ターゲットとした顧客の満足度を継続的に向上させることによって成される。そのために製品の価値向上と差別化・個性化は不可欠と言える。我々は、この二つの要素を効果的に実現するためには、機能定義の対象拡大を図ることと認識する。そこには、従来のVE対象（製品など）の果たすべき機能、その上位の目的となる機能、さらにVE対象（製品など）の機能発揮に密接に関わる「人」や「もの」が果たしている並位の機能もある。これら三者の機能分担を全体最適の思考のもと、合理的・合目的に行うことで、ターゲットとする顧客が製品に求める価値向上や差別化を実現するものである。



【略歴】1971年日立建機入社。以来、開発設計業務及びVEによる原価低減を積極的に推進。後半はVE推進部門長として原価企画活動に従事し、VE活動の支援・統制及びVE-WSS教育でVELを多数養成。2003年、日本で4社目となるマイルズ賞企業本賞受賞に導く。現在、GHコミュニティ代表、日本経営システム協会主席研究員としてVE研究に携わる。

《論文発表②》 コスト最適設計力を持つ技術者の育成方法の開発 株式会社デンソー 原価企画室課長 竹菴 憲治 氏 VES

自動車部品業界の技術者に、必要なコスト最適設計力に変化が訪れた。近年の先進安全装備の装着拡大に伴う、機電一体製品の増加が要因である。そこで本論文では、この問題を解決するために、次の3点について述べている。第一は、環境変化に合わせたコスト最適設計力を得る育成方法の開発、第二は、顕在化した能力の能力到達度指標開発、第三は、開発した育成方法の実践による有効性の証明である。



【略歴】デンソー（当時、日本電装）に入社後、自動車用圧力、磁気センサーの開発・設計に携わり、製品開発にVEを適用した。この経験を活かし、現在は原価企画室源流原企課長として、バリュー・エンジニアの育成と戦略製品のコスト最適設計活動に従事している。

《論文発表③》 ものづくり人材教育におけるTRIZ創造手法の適用

佳作論文

三菱電機株式会社 人材開発センターものづくり教室
教室長 織田 昌雄 氏 CVS ほか

第50回VE全国大会で提案した10の対極発明原理を改良し、その適用範囲を技術的課題の解決から社会的課題の解決に拡大した。発明原理を製造企業における人材教育の企画立案に適用し、より価値の高い教育プログラムの基本着想を得た。それは視座高く視野広く、固有技術・固有技能・管理技術を含めて全体最適化に取り組む方針を打ち出すものである。基本着想の具体化に取り組んだ教育プログラムの事例では、技能系新入社員に視野を拡大する気づきを与えることが実証できた。



【略歴】大阪大学大学院基礎工学研究科修了後、三菱電機に入社。生産技術の研究開発に携わる。設計、VE、開発企画のマネージャーを経て、三菱電機全社の人材育成を担う人材開発センターものづくり教室長（部長）を務めている。2016年CVS取得。VE研究論文は2016年佳作、2017年優秀、2018年佳作の3回入選。SAVE主催の2018 VALUE SUMMIT（米国テキサス）、日本TRIZシンポジウム2018で論文を発表。

《論文発表④》 類似サブアセンブリ品への効果的なVE活用法 ～基本となる機能系統図の使用～

三菱電機株式会社 生産技術部生産技術グループ 有住 雅子 氏 VES

働き方改革により業務効率化が推進され、VE活動自体においても、VE投資倍率の向上が重要課題となっている。本論文では、適用数量による利益拡大が期待できず、VE活動が積極的に行われてこなかった個別生産品を主体とする製品に着目し、基本機能は異なっているが、類似の2次レベルの機能をもつ機能の実現手段の情報を収集することにより、VE活動を効率的に、かつ効果を拡大させる手法を提案する。



【略歴】半導体製造会社にて音声用半導体の設計業務を担当した後、2013年10月より三菱電機にて現職に従事。本社VE推進事務局に所属。

《論文発表⑤》 電子回路VEにおけるブロック図を活用した機能の整理の一方法

佳作論文

パイオニア株式会社 経営戦略部経営革新部
コストエンジニアリング部 主事 下村 盛章 氏 VES

電子回路VEの普及を阻む要因は電子回路の特徴にある。第1に、電気技術者は回路や部品の機能に着目して開発設計している一面があり、改めて機能分析することは不要と感じさせやすいこと。第2は、電子回路は多機能化が進んでおり、機能系統図作成に多大な工数を要することである。本論文はこれらの改善方法の一つとして、機能の整理に適したブロック図とその活用を提案するとともに、この方法の有効性を明らかにするものである。



【略歴】1997年より前職にて、電気技術者として人工衛星の地上局設備および防衛関連設備等の電子機器開発に従事。2004年パイオニア入社。カーナビゲーション等の車載機器の電子回路設計業務を経て、2013年頃からVEに本格的に取り組み始め、2016年に現部署に異動。VEの推進・普及と原価企画の業務を行っている。

■ 事例発表

《事例発表①》 歩行者等誤進入、逆走検知・警告システムの低コスト化検討事例

首都高速道路株式会社 日本橋区間更新事業推進室
計画調整課 課長代理 角田 征 氏 VEL

首都高速道路内に歩行者や逆走車等が立入り、それによる人身傷害に至る重大事故の発生を回避するため、歩行者等の誤進入や逆走車を自動検知し警告するシステムを、できるだけ多くの出入口に、期間をかけることなく展開するため、箇所あたりのコスト低減と現行システムの機能向上も図る必要があった。



【略歴】1998年に首都高速道路公団に入社。土木技術者として、保全管理業務の調査、設計、現場監督、事業中路線の調査、新規事業（大規模更新、大規模修繕）の計画の業務を行う部署を経験し、現在、日本橋区間の更新事業の計画業務を担当。

《事例発表②》 現場社員へのVEマインド普及媒体の改善事例

株式会社サイゼリヤ イノベーション本部変革推進部 マネジャー
吉澤 謙一 氏 VEL



当社では、1000店舗に1~2名在籍する現場社員に対し、VE啓蒙として週1回のVE情報を発行している。導入5年目にして社員の半数がVEマインドに共感する状態になったが、まだ二の足を踏む社員がいることから、抵抗なくVEマインドに触れられる媒体が必要であった。全社員向けに直感的にわかる普及媒体を開発したので紹介する。

【略歴】2000年入社。レストランサイゼリヤの店舗を統括するマネジャー業務に従事。2014年よりVE専任組織である変革推進部FAチームに配属。現在は専任者としてFAマネジメントのタスク設計と実行、プロジェクト改善、社内VE研修の講師を担当し、社内のFA継続の仕組みづくりに携わっている。

《事例発表③》 給湯器の電子回路におけるVEの適用事例

株式会社ノーリツ 研究開発本部 技術管理部開発技術企画室
増田 裕也 氏 VES



弊社の主力製品である給湯器においても、近年、安心・安全に対する考え方や、機能が複雑化してきたことにより、電子回路の重要性が高まり、かつ製品に対する電子回路のコストの比重も高くなってきている。この度、開発の上流から電子回路に対してテアダウンを行い、VEを適用させることにより、電子回路の最適設計を行った。その事例について紹介する。

【略歴】2009年ノーリツエレクトロニクステクノロジー（現在はノーリツに合併）に入社。ガスコンロ、浴室暖房乾燥機の電子回路設計を担当後、2014年より現部署に異動。ガス給湯器の原価企画やVE活動の推進、ものづくりプロセスの見直し等に従事している。

《事例発表④》 自動車用プレス部品の材料歩留率向上を目指したVE ～広島地区VE塾の取り組みから～

住野工業株式会社 生産技術グループ主務 小林 寛史 氏



自動車の衝突安全性能向上用ブラケットのプレス金型製造工程にVE手法を適用。金型レイアウトに必要な機能を見直し、歩留率向上を追求した。

【略歴】1993年住野工業株式会社に入社。生産技術Grテクニカルセンターへ配属。機械加工に3Dデータをベースにした3D金型設計業務に従事。2011年本社生産技術へ配属。解析、部品評価、共同活動、工程設計業務に従事し、現在に至る。

【VE塾について】

西日本支部（中四国・九州地区）が福岡と広島の2拠点で開催している公開ワークショップ・セミナーです。職場で抱えている問題や課題をテーマに行うグループ演習により、VEの実践力を身につけることができると好評です。

《事例発表⑤》 ビジネスホテルにおけるサービスの価値向上に向けたVEの適用事例

全国でチェーン展開しているビジネスホテルでは、知名度とスケールメリットによるコスト低減を生かした価格設定によって集客力を強めており、独立系小規模ホテルは厳しい経営状況にある。そのような状態から脱却して競争優位を勝ち取るために、VEによってチェーンホテルではなしえないサービスの価値向上を図ったホテルの事例を紹介する。

大阪学院大学経営学部 教授 大阪府立大学 名誉教授 山本 浩二 氏 VEL

【略歴】1983年神戸大学大学院経営学研究科博士後期課程単位取得。香川大学商業短期大学部、大阪府立大学経済学部助教授、同教授を経て2017年より現職。大阪府立大学経済学部長、現代システム科学域副学域長・マネジメント学類長など歴任。専門は管理会計・原価計算。大阪府監査委員など公職多数。



株式会社ホテルサン防府 代表取締役社長 林 順子 氏 VEL

【略歴】1995年4月、ホテルサン防府入社。同年6月、同社代表取締役であった父の死去に伴い現職に就任、現在に至る。2015年、大阪府立大学大学院経済学部研究科（MBA）に入学。山本浩二教授のもと、管理会計とVEを学ぶ。2016年VEL資格を取得。ホテル経営にサービスVEを取り入れて、ホテルの価値向上を図っている。



■ 特別報告

《特別報告①》 AIからBIへ ～社会成長期へ向けた次世代型VE/VM～ バリューデザイン・ラボ 不便益&VE研究会

不便で良かったこと、ありませんか？不便から得られる効用を不便益（Benefit of Inconvenience:BI）と呼びます。VEが向上を目指す「使用機能」は、効率化や高機能化、あるいは自動化などの“便利”を志向します。近年盛んなAIによる人の労務の代替が代表的です。しかし、社会成長期に求められるのは便利だけではありません。他には「魅力機能」があります。しかしそれだけでもありません。VE/VMが次世代で扱うべき第三の機能として「不便益」に着目した研究成果を報告します。

京都大学 デザイン学リーディング大学院 特定教授 川上 浩司 氏

【略歴】1987年京都大学工学部卒業、1989年同大学院工学研究科修士課程修了。同年岡山大学工学部情報工学科助手、1998年京都大学情報学研究科助教授、2014年同大学デザイン学ユニット特定教授。博士（工学）。著書に『不便から生まれるデザイン』（2011年）『不便益という発想』（2017年）など。計測自動制御学会（1991年、2003年、2013年）ヒューマンインタフェース学会（2010年、2018年）自動車技術会（2014年）で論文賞受賞。



撮影：竹中稔彦

名古屋大学 工学研究科 講師 Emanuel Leleito 氏

【略歴】
2010年3月：豊橋技術科学大学大学院工学研究科博士後期課程環境生命工学専攻（修了）
2010年4月～2012年3月：豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系（研究員）
2012年3月～現在に至る：名古屋大学・工学研究科（講師）、減災連携研究センター（兼務）



【バリューデザイン・ラボについて】

VEの適用領域拡大のための先端的・実務的研究および調査などを積極的に推進する組織として2016年9月に発足。「不便益&VE研究会」を設置し、不便益（Benefit of Inconvenience:BI）という新しい視点に着目して、使用機能でも魅力機能でもない第三の機能“不便益機能”を提唱。不便益による価値創造、革新的なVE/VM領域の確立を目指している。

**《特別報告②》 VEの知識・経験が少ない人でも効果的なVE思考ができる指導とは
—VEと言わずにVEをやってみた—
株式会社IHI 主幹 薄衣 光明 氏 CVS**

VE活動の経験が不足している人やVEについて全く知らない人でも、効果的な成果を出せる方法があれば、VEを知るきっかけにでき、VEの普及にも大きく貢献できる。VEとは言わず、VEの基本的な用語も使わずに、実際にやっている内容はVEの基本的な思考を通して、大きな成果に結びつけるプロジェクトを指導した。その指導内容および結果を紹介する。



【略歴】1984年、石川島播磨重工業（現在のIHI）に入社。衛星推進用ロケットエンジンの開発や将来航空エンジンの開発に従事。1999年から航空宇宙事業本部のVE推進担当となり、開発設計段階からのVE活動を推進。2008年にCVS取得。VEを知らない人でも、VEをやったような効果が得られるような活動を試行している。

**《特別報告③》 駅の利便性向上と渋滞解消を目指した交差点改良の設計VE
群馬県県土整備部 建設企画課副主幹 土屋 隆太郎 氏 VEL**

群馬県では、「①地域ニーズ・地域特性を捉えた設計の徹底」「②より安く、より良い公共事業の提供」「③技術向上と技術の伝承」「④創造的な組織風土づくり」の4つを設計VE導入の目的として、県民本位の質の高い公共事業の提供を目指している。今回は、駅の利便性向上を図るための「駅前広場整備計画」と周辺道路の渋滞解消を図るための「交差点改良事業」の2つの計画を両立させるために実施した設計VEの活動事例を紹介する。



【略歴】1996年群馬県庁入庁。高崎土木事務所をはじめ、中之条土木事務所、沼田土木事務所、道路整備課、八ッ場ダム水源地域対策事務所で道路や橋梁整備に従事し、2016年より現所属。設計VE推進担当として、VE実施に向けた事業選定、VEワークショップ運営などを実施。今年度からは、ICT活用工事等に関する業務を担当している。

**《特別報告④》 差別化機能抽出手順の提案 ～ヒット商品は企画で決まる～
東日本支部 R&D部会 野嶋 泰資 氏 CVS**

新興国の成長が著しく、海外勢も含めた競争が激化している。そこで、顧客に選ばれる商品づくりを目指して「差別化機能」の概念を導入し、抽出から商品コンセプト確立までの手順を提案するとともに、その過程で考案した「差別化機能の体系図」の特徴を紹介する。今回提案する抽出手順は、2件のケーススタディを通じて検証作業を実施済みであり、来春のVE特別資料発行を目指している。



【略歴】1990年石川島播磨重工業（現在のIHI）に入社し、主に航空エンジン部品の強度評価業務に従事。2002年に航空宇宙事業本部（現在の航空・宇宙・防衛事業領域）のVE推進部門に異動し、活動の支援や教育を担当。2004年から東日本支部の研究開発・設計部会（現在のR&D部会）に参加し、2011年～2016年には「差別化機能の研究チーム」のリーダーを務める。

《特別報告⑤》 世界の潮流、FASTダイアグラム活用のススメ ～SAVE国際協会の最新動向とともに～

株式会社ファンクショナル・アプローチ研究所 代表取締役社長 横田 尚哉 氏 CVS

FASTダイアグラムは1960年代に日本に伝わり、機能系統図が生まれました。その後50年が経過し、2016年にSAVE国際協会は、FASTダイアグラムの新基準「ファンクション・アナリシス・ガイド」を出版しました。この特別報告に参加いただければ、最新のFASTダイアグラムの作成テクニック、長所と短所、機能系統図との違い、活用する上での留意点などを一通り知ることができます。米国で最新のセミナーを受講し、数多くのワークショップで効果を出し、自身の教育プログラムにも標準で組み込んでいるCVSだからこそ語れる内容です。VE全国大会の参加者に限定してお伝えいたします。



【略歴】経営コンサルタント。米国や欧州のVE界要人と太いパイプを持ち、毎年国際大会に参加・発表し、公共事業への設計VE、サービス業など新しい業界への開拓・導入のノウハウを持ち、VEを一層、一般ビジネスへの普及・発展に尽力をしている。TV・ラジオ出演、ビジネス書籍・雑誌出版、セミナー・講演など多数。

《特別報告⑥》 「道の駅」の価値向上の取り組み

東日本支部 社会インフラ部会 木守 岳広 氏 CVS

昨年度、国土交通省関東地方整備局と日本バリュー・エンジニアリング協会との共同研究にて行った「道の駅」の価値向上の取り組みについて報告する。これまで公共事業では、VEは事業のコスト削減に多く活用されてきたが、価値を向上するための取り組みは少ない。今回、実際の「道の駅」の計画を対象に試行ワークショップを行い、「道の駅」の計画にVEを適用することにより、より良い道の駅の整備に効果があることを実証した。



【略歴】1991年パシフィックコンサルタンツ入社。橋梁など道路構造物全般の計画と設計に従事した後、2006年よりVE専任組織であるVEセンターに配属。VEコンサルタントとしてVE研修、VE講演、プロジェクト改善、組織改善等、公共事業の改善活動を幅広く支援する。現在はVEセンター長として、新規プロジェクトの企画開発に携わる。

MEMO

《特別報告⑦》 フィールドサービス業の業務効率向上と新サービス創造VEプロジェクト ～顧客満足と社員満足による価値創造経営～

「VEの新しいカタチ」として、サービス業の価値創造経営手法としてVEを導入した事例を紹介する。高い顧客満足を迅速に提供するために、価値ある業務へのシフトと価値ある新サービスの創造に部門横断チームで取り組み、業務の効率化と売上拡大の成果を創出できた。批判厳禁会議による「言える化」風土の醸成で、理想の業務と理想のサービスのVEアイデアを提案・実現することで、社員満足も向上できた。

新川電機株式会社 執行役員フィールドエンジニア本部長 田屋 将 氏

【略歴】1993年新川電機入社。入社以来、フィールドサービスエンジニアとして国内外の様々な顧客企業現場とマネジメントを経験し、2018年より現職。2016年よりVEを経営改革手法として導入し、現在、13拠点の業務改革プロジェクトの推進とVEリーダーの育成で新しい価値の創造に取り組んでいる。



株式会社福原イノベーション研究所 代表取締役社長 兼 CEO 福原 政則 氏 CVS

【略歴】1995年日立製作所入社。デバイス開発センターにて半導体の研究開発、本社にて日立全社VEコンサルティング、日立国際電気にて製品開発VEプロジェクト全社統括業務に従事。2008年主任技師、2011年より現職。製造業およびサービス業の経営改革コンサルおよび研修実績企業数は178社にのぼる。



《特別報告⑧》 VEを応用したプロジェクトマネジメント

UR都市機構 東日本都市再生本部事業推進部 担当部長
芝浦工業大学 非常勤講師 久野 暢彦 氏 VEL

困難を伴うまちづくりプロジェクトを実現するには、的確なプロジェクトマネジメントが必要である。「正しいプロジェクトの設計になっていること」を確認するマネジメントを目指し、機能の定義を客観的な基準に置き換え、ワークショップを通じて改善項目を評価することでVEを応用した。このような「VEの新しいカタチ」について報告する。

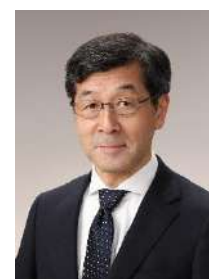


【略歴】1990年にUR都市機構へ入職。駅前の再開発や区画整理、密集市街地改善や防災公園等の市街地整備事業に従事。事業の企画立案から事業の実施を担当。まちづくりの審議会等で委員を務め、東日本大震災等で災害派遣を経験し、芝浦工業大学で教鞭を執っている。U I T技術研究発表会/優秀賞、土木学会(建設マネジメント委員会)/優秀講演賞、日本VE協会/VE活動奨励賞等を受賞。

《特別報告⑨》 野球型からサッカー型への大転換 90分で完了する「業務改善の短時間VE」とは

足立バリューアップ・コンサルティング 代表 足立 忠郎 氏 CVS

働き方改革などで職場の生産性向上が求められています。そこで、「業務の短時間改善法」を考案して展開してきました。従来のVE手法にこだわらず、VE熟練者でなくても短時間で成果を上げられることを目指しました。そのために手順を簡略化し、事前作業を充実させ、短時間で効率的に発想できる工夫をしました。事例を交えて新しい改善法を紹介します。



【略歴】1980年鹿島建設入社。設計や施工管理を担当した後、基幹業務の生産性向上の仕組みづくりを担当。原価管理業務や契約・支払い業務などを見直し、システム化を進めた。2016年鹿島建設を退職。2017年に足立バリューアップ・コンサルティングを設立し、建設業の業務改善コンサルタントとして活動中。技術士(衛生工学)

■ 海外発表

《海外発表①》 フィリピンにおける公共事業のVE支援体制と制度化

SYSTRA Philippines Inc. Maria Rhiza Castillo 氏



フィリピンの国家経済開発庁（NEDA）は2009年、主要なインフラプロジェクトの投資対効果を高めると同時に、プロジェクトの効率性、有効性を高めるためにVEハンドブックを策定した。このハンドブックは、政府の資源を最大限に活用しながらプロジェクトにより多くの価値を提供するために、SAVE International（米国VE協会）公認の6つのステップによるジョブプランをベースに作られており、これまでに灌漑公社、保健省、公共事業・高速道路局、交通局、鉄道公社と14の地方事務所でプロジェクトを実施している。本発表では、フィリピンでSAVEのVEプロセスを導入した経緯を紹介するとともに、今後取り組むべき課題について触れる。



【略歴】 SYSTRA Philippines Inc. 社長。組織の運営管理、オフィス・マネジメント、人材開発・育成、プロジェクト管理、事業企画、マーケティング、営業と幅広い経験とコンピテンシーを持つ。SAVE認定VMA資格を取得。

《海外発表②》 インドにおけるVEの活用状況と今後の展開

インドVE協会(INVEST) Taresh Varshney 氏



インドVE協会（INVEST）は1977年に設立され、インドの産業界へのVEの専門知識の普及のため活動している。会員に対してコンサルティングや研修、VEツールや専門書、資格認定、会員相互研鑽などの機会を提供している。協会組織は4つの地区と資格認定委員会で構成されている。INVESTが主催する国際VE大会は、今年は12月7日・8日、ムンバイで開催される。国内外から200名以上の参加者が集い、各方面で活躍中のVE専門家による様々な発表や講演を通じて、参加者は活発に情報交換し、新しい革新的な知識を吸収して実務に活用している。



【略歴】テクノロジー、エンジニアリング、建設、製造、金融サービスを手掛けるインドのグローバル企業、Larsen & Toubro社に在籍。同社はINVESTの会員企業として積極的に活動しており、西部地区の副支部長兼事務局を務めている。

《海外発表③》 VEを活用した交通インフラプロジェクトの取り組み

SYSTRA Philippines Inc. Christine Stephanie Laumond 氏



フィリピンでは、2013年より交通インフラ関連のプロジェクトを対象としてコンサルタント委託契約を入札条件に加えることで、VEの制度化を加速させている。政府はその提案に対し、プロジェクトの完全性や政治的背景のみを基準に採否を決定するだけで、プロジェクトの技術性や持続可能性がきちんと検討されているかどうかは定かではなかった。この状況に対応すべく、国家経済開発庁（NEDA）はこれらのプロジェクトにコンサルタントを入れてVEスタディを実施することを決定した。VEスタディの結果、道路線形がより整備され、適切な交通手段や持続可能性、コスト有効性、プロジェクト実施の効率化などが立証された。



【略歴】 SYSTRA Philippines Inc. 人材管理マネジャー。2014年より同社のVEプロジェクトに参画。2016年10月、カナダ・トロントで5日間のモジュールIワークショップを受講し、SAVE認定VMA資格を取得。

《海外発表④》 トラクターの車軸組み立てにおける製造VE事例

フロント車軸は乗客の安全にとって最も重要な部品のひとつであり、その設計については、何年もの間検討されていなかった。我々はVE専門家として、コスト評価と機能分析という強力なツールによって設計変更挑戦した。機能分析の結果、フロント車軸組立の二次機能は、フロントタイヤハブとその付属部品の設計最適化によって達成できることが判明した。プロジェクトの中で最も困難を極めたのは、検査体制の構築とすべてのトラクター車種への設計の適用性を保証することであった。リスクを想定しつつ、範囲を限定せずに行ったことで、重量の最適化、在庫費用削減、現場のいら立ちの解消、3,200万ルピーもの原材料費削減、二酸化炭素の排出量削減など、様々なメリットを達成できることを証明した。



Mahindra & Mahindra, Ltd. Priya Davis 氏

【略歴】農機事業部車両技術部トラクターグループのマネージャーとして、VEプロジェクト実施を担当。機械技師として12年ほど製品設計、VE、プロジェクトマネジメントに従事。積極的なVE活動を通じて、組織の目標達成に貢献している。



Mahindra & Mahindra, Ltd. Mahadev Gavade 氏

【略歴】農機事業部品品質保証部次長。新規部品開発のPPAP（生産部品承認プロセス）活動、設備、修繕、シートメタルや製造部品生産化、フロント車軸組立等をVEプロジェクトとともに担当。機械技師として新規部品開発、品質管理、生産、プロジェクトマネジメントに従事。



Mahindra & Mahindra, Ltd. Kishor Satpute 氏

【略歴】農機事業部資材管理部シニアマネージャー。新規部品開発、設備、修繕、シートメタルや部品標準化、フロント車軸組立等をVEプロジェクトとともに担当。生産技師として、調達、部品開発、VE、プロジェクトマネジメント、マーケティングに従事。

MEMO

■ フォーラムセッション

《VE教育フォーラム》 考えよう VE教育の新しいカタチ ～成果把握からインストラクターの資質まで～

ここ最近、VE教育を取り巻く環境に大きな変化が起きています。

『グループワーク中心の研修なので、若手社員が積極的に参加している』と上手に活用している企業がある一方、『教える人が退社したため、いつの間にかVE研修がなくなってしまった』『定期的に講習会を実施しているが、実務で活用されていない』と停滞中の企業もあるようです。

そこで今回、「全社的なVEリーダー養成プロジェクトの仕掛け人」「VE教育のあるべき姿を追い求めるフロントランナー」「VE教育再構築の牽引者」という三者三様のパネリストをお迎えし、「VE教育のゴールとは」「インストラクターに求められる資質とは」などについて熱く語っていただきます。VE教育に携わる方々のご参加をお待ちしております。

パネリスト

NS-Value Support 代表 関谷 則夫 氏 CVS

三菱電機株式会社 人材開発センターものづくり教室 教室長 織田 昌雄 氏 CVS

戸田建設株式会社 建築本部コスト管理センターVE推進室VE推進課 課長 松嶋 茂 氏 VES

モデレーター

TEDバリュー・コンサルティング 代表 服部 哲郎 氏 CVS

《新商品開発フォーラム》 商品進化を促す機能分析② ～新商品企画における機能整理の考え方～

VE概念が提唱されて70年。その間に社会や企業を取り巻く環境変化に合わせて商品も進化してきました。商品進化にVEがより貢献していくためには、機能分析にも『新しいカタチ』が必要です。

昨年のVE大会では、機能の定義対象を上位拡大、並位拡大した新概念の是非に関して公開討議を行いました。今年も第2弾として定義対象拡大後の機能整理、および制約条件を変動化させることによる手段機能の複合化・最適化による新商品創出の可否に関して皆様のご意見を伺いたいと思います。

機能整理に対するお考えをお持ちの方、これまでの方法論に疑問や物足りなさを感じている方のご参加をお待ちしています。

プレゼンター

日本経営システム協会 メタVE研究会 メンバー

なべ・バリュークリニック 代表 渡邊 美穂 氏 CVS

モデレーター

東京理科大学名誉教授・工学博士

日本経営システム協会 会長 田中 雅康 氏 CVS

■ 大会スポンサー

本大会の開催にあたり、下記の企業から格別のご支援を賜りました。ここに記して厚くお礼申し上げます。

エキジビットスポンサー



サポートスポンサー



ご来場の皆様へ（ご案内とお願い）

- 3階と5階のフロアは全面禁煙です。タバコは7階の喫煙コーナーでお願いします。
- ランチタイム、2階のレストランはたいへん混雑します。会場周辺にも飲食店が多数ありますので、こちらをご利用ください。（発表会場内での飲食はご遠慮ください）
- 許可を受けていない方の写真・ビデオ撮影、録音はご遠慮ください。
- 電話のお呼び出しはお受けできません。連絡事項は総合受付横の伝言板に掲示します。
- 携帯電話は電源をお切りいただくか、マナーモードへの切り替えをお願いします。
- お荷物は椅子の下に置くか、1階のクロークへお預けください。
- パソコンご使用の際は、キーボードの打鍵音にご配慮をお願いします。
- 館内でフリーWi-Fiがご利用いただけます。SSIDは「ARCADIA-FREE-WIFI」です。



無料コーヒーサービスのご案内

下記の時間帯、3階ロビーでホットコーヒーの無料サービスを行っています。どうぞお気軽にご利用ください。

- 10月23日(火) 10:40～15:50
- 10月24日(水) 9:30～16:00

コーヒーとの相性抜群という、最高級のイタリアチョコレートもご用意しています。スツととろけるチョコレートの味わいがVE仲間との会話を弾ませることでしょう。イタリアのバールスタイルでお楽しみください。



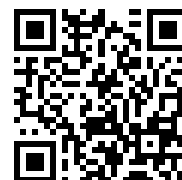
特別協賛：株式会社サイゼリヤ

アンケートにご協力をお願いします

抽選で20名様に特製QUOカードをプレゼント！

今回のプログラムは、皆様のご期待に応える内容だったでしょうか？
皆様からのご意見やご提案を次回大会の企画・運営に反映したいと思
います。空き時間を利用して、「参加者アンケート」へのご協力をお願い
します。【所要時間は3分程度です】

右のQRコードをスマートフォンで読み取って簡単アクセス！



企業内VE研修のご案内

1965年創立の日本VE協会は、日本唯一のVE専門団体です。VE研修は弊会にお任せください。認定資格を持つ経験豊富な専門家が講師を担当いたします。



人材育成につながるVE教育

VEは、創造的に問題解決するための実践スキルです。VE思考を身につけることで、顧客視点に立って考え、発想する力、機能を原点として「それは何のために？」を考える習慣が身につく、人と組織に変革をもたらします。

企業内研修のメリット - ニーズにあった内容で、時間も費用も削減できる -

- 教育ニーズに合わせてカスタマイズしたプログラムでの実施が可能です。
- 研修の準備や実施にかかる時間を削減、貴社の業務負担を軽減します。
- 外部セミナーの受講に伴う出張費用、出張時間の削減になります。
- 受講人数が多い場合、公開型セミナーの受講より効率的に実施できます。
- 実施日程、曜日、時間帯などご要望に合わせてご提案いたします。

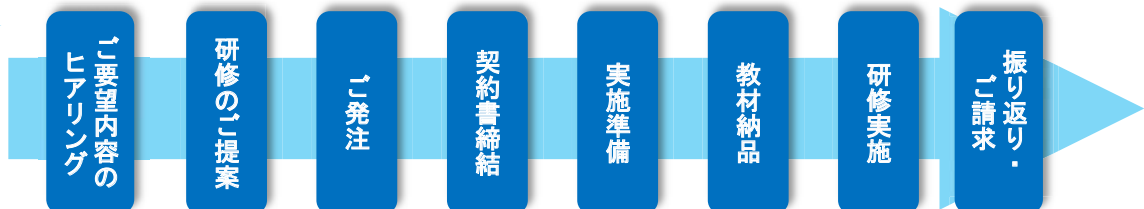
実施例

- 定型プログラム …… VE基礎講座等の公開講座と同じ内容を貴社内で実施いたします。
- オリジナルプログラム …… 公開講座の内容をベースにして、貴社の教育ニーズに合わせたプログラムをご提案いたします。
- VE講演 …… VEの導入を検討されている企業・団体向けにVEの活用成果などをご紹介します。

費用例


- 定型プログラムの場合 (テキスト・教材費込、消費税・講師交通費・宿泊費別)
10名様：300,000円 / 20名様：450,000円 / 30名様：600,000円

実施までの流れ



お問い合わせ・お見積りは、下記までお気軽にどうぞ。

Eメールまたはお問い合わせフォーム<https://www.sjve.org/11163>をご利用ください。

 公益社団法人 日本バリュー・エンジニアリング協会

東京都世田谷区駒沢 1-4-15 真井ビル 6F
TEL.03-5430-4488 / FAX.03-5430-4431
E-mail info@sjve.org URL www.sjve.org